

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472000577	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社 花企画		
事業所名	グループホーム 湘南安居花樹庵		
所在地	(〒259-1214) 神奈川県平塚市飯島506		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の広がる穏やかな閑静な住宅地に位置している。散歩や買い物など、自然を肌で感じながら、春にはレンゲ畑の中を、夏は大きな青空に包まれ、秋には黄金色に輝く稲穂のさざ波に揺られ、冬には希少な鳥たちのさえずりに耳を澄ませることのできる場所です。「食べることが生活すること」を基本に、地域でとれた新鮮な旬の物を手作りで美しく美味しく、そして何よりも身体の事を考えた食材の組み合わせをおして、健康的な明るい生活を目指していきます。地域との繋がりが、特に幅広い世代との交流をおして優しさや思いやりの心を育てる環境をグループホームからも発信していきたい。入居者の希望を100%に近づけて叶えられるよう、職員は常に挑戦していきたい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成29年2月24日	評価機関 評価決定日	平成29年3月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇研修体制
 年間計画を立て、年2回の全日研修や毎月の職員会議で「理念・倫理」「感染症予防」「身体拘束・虐待」などの内部研修を実施し、介護技術や意識の向上を図っている。外部研修に参加したり外部講師を招くなど、外部から知識や情報を取り入れている。
 ◇災害対策
 年8回、想定を変えた避難訓練や通報訓練を行い、訓練後には職員間で振り返りを行い、緊急時の行動の習得と防災意識向上に努めている。既に火災時や地震時に加えて、浸水時のマニュアルを作成中である。

【事業所が工夫している点】
 ◇利用者アンケート
 毎月、「バスハイクの行先」「お正月の過ごし方」など、時期に合わせたテーマで聞き取り調査を行い、利用者の思いに添う支援をしている。
 ◇入居者役割分担表
 利用者の意思や身体状況に合わせて、「新聞の取り込み」や「洗濯物たたみ」など、役割分担をデイリープログラムに組み込み、体力の維持や張りのある生活を支援している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 湘南安居花樹庵
ユニット名	1階 花

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義と理念は年度当初に年間事業計画と共に職員会議で全員に説明。理念は、内部研修で年1～2回紐解いて説明し、事務所、玄関に掲示している。	・玄関ホールに掲示し、年度初めの職員会議、内部研修で理念、方針を全職員に周知している。 ・毎月、個々の利用者の希望を聞く時間を設け、理念「一人一人の個性と希望を大切に～」を支援に反映して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事への参加・協力をしている。施設の行事にも住民参加が増加傾向がある。日常的には、散歩や買い物時に挨拶を交わす、お花を頂くなどの交流がある。	・毎日の散歩や買い物の際に地域住民と挨拶を交わし、事業所への訪問や花の差し入れなどの交流がある。 ・利用者や職員は、祭りや地域清掃などに参加し、事業所の縁日や餅つきに、子ども達や地域住民が訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の散歩や買い物をとおして交流があり、また整髪には地域の理容店に行く。運営推進会議を通して認知症の理解や支援の方法を実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催ごとの内容を年間計画において決めており、活動報告、入居者の動向、介護計画の意味や家族へ開示の報告、事故・ヒヤリハット報告、認知症高齢者の状況等を説明し、意見を伺い、職員会議で会議の報告等を行い向上に活かしている。	・2か月に1度、自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族が参加して開催し、活動報告や意見交換をしている。 ・地域の自治会役員から過去の災害情報を得て、災害対応マニュアルの見直しを行った。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話での相談や報告ではなく、直接出向いて説明や、報告をすることがある。又、市のシステム会議には市の担当者が出席しているので、そこでもGHの実情の説明をしたり、協力関係が構築できるよう心掛けている。	・災害時の対応について相談するなど、積極的に連絡をとり、市と連携している。 ・「ひらつか地域介護情報ネットワーク」や「グループホーム連絡会」に参加し、市担当者と連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、基本しないという理念を職員に意識づけている。年1～2階の内部研修では、法律を中心に説明し、何故いけないかを話し合い、拘束しないで済むようなケアの方法を検討している。	・毎年研修を行うとともに、ベッド柵使用について事例検討するなど、身体拘束廃止について職員間で確認し合っている。 ・家族の同意を得て、玄関は施錠しているが、外出したい様子が見られれば散歩に同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本は身体拘束と同じように周知している。知らないうちにできてしまう、痣等にも気を配り、いつ・どこでできたのか確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回、市の社会福祉協議会より後見人の実習がある為、受け入れの前に、制度の説明や、実習の目的などを職員に周知し、適切な受け入れができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて内容の説明をし、質問に対しても誠意をもって納得して頂けるよう締結または、解約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話、年2回の家族との懇談会時、運営推進会議時等いつでも話し合いを実施し、納得頂けるようにしている。又、内容によっては職員会議やケース会議の議題に提案し、検討している。	・運営推進会議や懇談会など、家族の意見を聞く機会を設けている。 ・家族来訪時には、管理者や職員が意見を聞いている。 ・家族から浸水時の対応についての質問を受け、職員会議で検討しマニュアルを作成中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議、正規職員会議、年に1回程度の面接時に職員の意見を聞いている。内容によっては、職員会議に提案し検討している。	・管理者は会議や面接などで職員の意見を聞き、職員会議で検討し運営に反映している。 ・上履きをはいたままの緊急避難の危険性や、備蓄の防寒具が高齢者に適切かなどについて、職員間で改善策を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務職責票の整備による将来の目標を立てやすい環境や、必要な資格取得のための助成制度の創設、人事評価等による目標の設定等、また個々の職員の経験・資格・年齢等による研修計画を作成し、必要・希望に応じた研修の履修に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験・年齢・資格・個性等を鑑み、個々の研修計画を作成し、履修できるように努めている。法人内の内部研修でも、訓練をも含め得意な分野での講師を務めてもらうなど、内部でのトレーニングにも参加してもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流は、県内・市内GH連絡会を通じて、研修等の参加をしている。市内の連絡会では、様々な話し合いの場も設けられている。年に1回の研究発表会にも、できるだけ参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時に、GHでの生活で気になることや、希望すること等を伺い、入居前に準備できる事はしておき、入居時に安心できるような準備をしておく。又、入居後も困っていることがないか、状況を見ながら声をかけて行くなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に、家族等がGHに望むことや不安なことをしっかり伺い、できるだけ安心して頂けるように準備を整える。面会時にも、家族から見た入居者の様子を伺う事により関係を構築していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人のニーズを把握し、支援の方法を検討していく。他のサービスが必要な場合にも対応を検討していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が生活の主体者であることを職員には周知し、寄り添いながら一緒に行うことをできるだけ実践している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割と、職員の役割は自ずと異なり、職員が生活の継続性を重視しながら、家族としてできる事を支援して頂く。それにより本人を支えていることを双方で理解していく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも、誰でもGHに訪れることができるよう、面会時間は、面会される方が起床されている時間は、自由に面会・外出ができる事を入居時に説明し、家族や、近親者・知人との絆を継続できるよう支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・知人の来訪にお茶を出すなど、寛いで過ごせるよう配慮し、また、電話の取次ぎや年賀状のやり取りを支援している。 ・法事や墓参など、家族との外出の際には密に情報交換をし、事業所が出来る支援をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度の方は、孤立しがちであるので、職員ができるだけ寄り添いながら生活の継続を心掛け、交流の持てる方にはその関係を大切に見守るなど、夫々の形を大切にし支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を出したり、必要に応じて連絡を入れたり関係が継続するように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月に一度、入居者にテーマを決めて意見を聞いたり、日常的にも希望を聞くことを大切にしている。入居者の希望を100%に近づけて叶えて行くことを方針にしている。意思表示の困難な方に関しては、日ごろの行動から考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、個々の利用者から意向を聞き取る時間を設け、支援に反映している。 ・利用者の意向が窺われる言動や、職員が気づいたことを日々記録し、職員間で共有して意思把握困難な際の思いの推察に役立てている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面接において、家族・本人からの聞き取りにより、把握に努めている。叶えられる内容についてはできるだけ実行している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、観察し把握に努めている。交代勤務の為、情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議により、職員と状況の共有に努め、家族から見た入居者の状況も重視し、専門職からの意見も聞きながら意見を反映した介護計画の作成に心掛けている。	・看護師が参加する毎月のケース会議での検討や、3か月毎のモニタリング、医師や利用者、家族の意向をもとに、原則、年1回介護計画を作成している。ケース会議での見直しなどを踏まえて、必要に応じて計画変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	処遇日誌を見やすく書きやすく改正し、記録時間の省力化を図り、生活記録の記入をしっかりとできるように工夫した。それにより、介護計画にも反映しやすくなったと考える。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成概念に囚われず、希望を100%に近づけて叶えられるよう、日々の生活で工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への外出は、花々や動物に出会い、県立の花菜ガーデンや、農協のあさつゆ広場、養護学校、幼稚園が入居者を楽しませてくれる。田んぼや畑には季節の物がなり、職員に名前を教えてくれるなど様々な資源との出会いが楽しめる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科一般については、在宅時の意思が往診され、本人たちが希望すればそのまま継続している。協力医を希望される方は、協力医の往診が受けられる。また、皮膚科、精神科、歯科も希望により往診してくれる。	・事業所の協力医をかかりつけ医とし、また、4名の利用者が在宅時からの医師を継続してかかりつけ医としている。 ・利用者ごとに、月1～2回往診を受け、職員から集めた医師への相談と回答を記録し支援に生かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが、看護師を雇用し、往診時や医師の不在時に、医療面での報告や相談ができる。出勤時には、積極的に入居者の状態把握と適切なアドバイスをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最近の医療関係者は、施設ではなく家族のみしか対応してくれないことが増加しているが、MSWや家族をとおして情報を得て、早期退院や状態を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者と話をすることは困難であるが、家族との話で、希望を聞いておく。将来、そのような状態が起きた時、さらに詳しく施設での対応や、家族の役割医療関係者の役割その他、マニュアルに添って再度家族との話し合いを行う。	・利用開始時に、事業所で行える終末期の対応を伝えている。状況に応じて、事業所のターミナルケアについて書面で説明し、医療関係者や家族と連携してケアを行っている。 ・毎年、外部の看護師を講師とするターミナルケア研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で、緊急時に対応する講習もあるが、全ての職員が実践力を身に付けてはいない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回に防災訓練により実践力の習得を繰り返している。別に緊急通報訓練を実施。地域との協力体制については、確実な形はない。	・利用者も参加して、夜間など想定を変えて避難訓練をし、通報訓練を年8回行っている。訓練後は職員間で話し合い、改善を図っている。 ・7日分の非常時献立を立て、水や食糧、防寒具などを屋外倉庫に備蓄し、リスト管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードの研修に2名参加させ、職員会議で説明を繰り返し、人格の尊重・プライバシーの保護により、信頼関係が気づきより良い対応ができる事を体得させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は新人研修と内部研修で人格の尊重や、プライバシーについて話し合い、共有している。 ・管理者は職員が不適切な対応をした場合は、速やかに助言と指導をし、ケアの向上に努めている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月1回の利用者アンケートの日にはテーマを決めて入居者の希望を聞いている。その他、レクリエーションの時間等にも思いを話してもらったり、したいことを決めてもらうなど希望を言えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の特徴でもあるが、職員の思う通りには行かない方が多い。自由に過ごして頂き、外出等（散歩）希望があればその時に行うようにしている。職員サイドの日程には参加を促すことはメリハリある生活の継続の為、実施しているが強制はない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所に櫛を置く、希望者には化粧品を購入できるようにする、カットやパーマを希望されればご家族の協力のもと実施。施設にも、化粧品が用意してある。（香水含む）		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日、行事等含め食べたいものを聞きながら献立作りやおやつとして提供している。買い物にも同行してもらおう。食材切り、盛り付け、配膳、片付け、お茶入れ、食器拭きなどにも参加してもらおう。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査や日ごろの会話から利用者の好みを把握し、メニューに反映している。 ・金曜日の昼食、土曜日の朝食はパン食を提供している。 ・入居者役割分担表を作成し、職員と一緒に食材の買い出し、盛り付け、配膳を出来る範囲でしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供量は必要所要量の為、嚥下力、噛む力、好み等にも応じた提供方法を検討している。水分量は必要に応じ、記録をとっている。食べる姿勢や環境も影響するため、配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促している。夜間は義歯洗浄剤にて洗浄している。歯科の往診がある為、定期的に口腔検診も家族の希望があれば実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄習慣を把握し、時間でトイレ誘導を実施。できるだけトイレで排泄ができるよう促している。	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ誘導はプライバシーに配慮し、さりげなく小声で声かけをしている。 ・排泄チェック表や利用者の行動やしぐさからトイレ誘導のタイミングを把握している。声かけや誘導で改善した利用者もいる。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤等に頼らないよう、程度な水分補給、寒天ゼリーの提供、オリゴ等の提供、毎日の散歩など工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には1日置きに入浴できるようにしているが、毎日希望される方は入浴できるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は基本的に1日置きに実施しているが、個々の希望にも応じ、毎日入浴する利用者も2名いる。 ・入浴拒否の場合は無理強いせず、清拭などで支援している。 ・菖蒲湯やゆず湯で季節感を取り入れ、楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢、疲労感の強い方などここに合わせて日中の休憩を促している。夜間は、消灯時間は決めていないため、希望により就寝介助をしている。気持ち良い睡眠の確保の為、温度、照明等の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員ではないが、目的や副作用、用量等理解できている。誤薬のないよう飲み方の工夫をしている。新規の薬の場合は、飲んでからの症状にも留意している。最近、ジェネリックがあり、良い反面薬の名称が変わり覚えにくい欠点がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力や経験、生活歴など考慮し、役割を行ってもらったり張り合いや生きがいを感じてもらおうようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望すれば一緒に出掛けたり、時には家族の協力をお願いしてできるだけ希望に沿っている。ほぼ毎月、季節の行事を取り入れ、気分転換や楽しみにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は3つの散歩コースから利用者の体力に合わせて選び、車いす利用者も一緒に散歩に出かけている。 ・家族の協力でお墓参りや、日帰り温泉に行く利用者もいる。 	積極的に散歩を利用者に奨励し実行していますので、引き続き可能な限り散歩や外気浴を行い、利用者の健康維持・気分転換を支援することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理をしている入居者が数名いるが、自ら使用したいとの希望はほとんどない状態である。以前のように、様々な事が自然にできる事の意味は、職員全員理解している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話、手紙等は自由にしている。そのための支援は、その人に合った方法で実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって居心地良い空間は見慣れた場所、見慣れたものがある場所ではないかと思うが、建物全体を家庭に近づけ、落ち着いた色彩を用い、見慣れた環境を醸し出せるようにした。空気清浄器、加湿器、扇風機等々使用し環境を整えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングにはソファがあり、加湿器や空気清浄機で温度や湿度を調整し、居心地よい環境に配慮している。 ・玄関には干支の置物を置き、季節ごとの行事に合わせて、鏡餅やお雛様、五月人形などを飾っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの方がリビング、自室で過ごすことが多いが、ELV前の小ホール、玄関前の椅子、1階から2階へ、2階から1階へと自由に行き来ができ、思い思いの場所で生活している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで家庭で使用していた物の持参をお願いし、配置もできるだけ従来の部屋に近い状態をお願いしている。設置も、本人に確認しながら置けるよう心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室の整理整頓は職員と利用者で行い、換気や湿度にも配慮し、居心地よくしている。 ・利用者は使い慣れたタンス、仏壇、趣味のギターや三味線などを持込み、居心地よく安全に過ごせるように職員と一緒に配置している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、できるだけシンプルなつくりを心掛け、現存能力ができるだけ自由に活用できるよう促しながら、自立して生活の継続を心掛けている。		

事業所名	グループホーム 湘南安居花樹庵
ユニット名	2階 樹

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義と理念は年度当初に年間事業計画と共に職員会議で全員に説明。理念は、内部研修で年1～2回紐解いて説明し、事務所、玄関に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事への参加・協力をしている。施設の行事にも住民参加が増加傾向がある。日常的には、散歩や買い物時に挨拶を交わす、お花を頂くなどの交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の散歩や買い物をとおして交流があり、また整髪には地域の理容店に行く。運営推進会議を通して認知症の理解や支援の方法を実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催ごとの内容を年間計画において決めており、活動報告、入居者の動向、介護計画の意味や家族へ開示の報告、事故・ヒヤリハット報告、認知症高齢者の状況等を説明し、意見を伺い、職員会議で会議の報告等を行い向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話での相談や報告ではなく、直接出向いて説明や、報告をすることがある。又、市のシステム会議には市の担当者が出席しているので、そこでもGHの実情の説明をしたり、協力関係が構築できるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、基本しないという理念を職員に意識づけている。年1～2階の内部研修では、法律を中心に説明し、何故いけないかを話し合い、高速市内で済むようなケアの方法を検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本は身体拘束と同じように周知している。知らないうちにできてしまう、痣等にも気を配り、いつ・どこでできたのか確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回、市の社会福祉協議会より後見人の実習がある為、受け入れの前に、制度の説明や、実習の目的などを職員に周知し、適切な受け入れができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて内容の説明をし、質問に対しても誠意をもって納得して頂けるよう締結または、解約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話、年2回の家族との懇談会時、運営推進会議時等いつでも話し合いを実施し、納得頂けるようにしている。又、内容によっては職員会議やケース会議の議題に提案し、検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議、正規職員会議、年に1回程度の面接時に職員の意見を聞いている。内容によっては、職員会議に提案し検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務職責票の整備による将来の目標を立てやすい環境や、必要な資格取得のための助成制度の創設、人事評価等による目標の設定等、また個々の職員の経験・資格・年齢等による研修計画を作成し、必要・希望に応じた研修の履修に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験・年齢・資格・個性等を鑑み、個々の研修計画を作成し、履修できるように努めている。法人内の内部研修でも、訓練をも含め得意な分野での講師を務めてもらうなど、内部でのトレーニングにも参加してもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流は、県内・市内GH連絡会を通じて、研修等の参加をしている。市内の連絡会では、様々な話し合いの場も設けられている。年に1回の研究発表会にも、できるだけ参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時に、GHでの生活で気になることや、希望すること等を伺い、入居前に準備できる事はしておき、入居時に安心できるような準備をしておく。又、入居後も困っていることがないか、状況を見ながら声をかけて行くなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に、家族等がGHに望むことや不安なことをしっかり伺い、できるだけ安心して頂けるように準備を整える。面会時にも、家族から見た入居者の様子を伺う事により関係を構築していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人のニーズを把握し、支援の方法を検討していく。他のサービスが必要な場合にも対応を検討していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が生活の主体者であることを職員には周知し、寄り添いながら一緒に行うことをできるだけ実践している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割と、職員の役割は自ずから異なり、職員が生活の継続性を重視しながら、家族としてできる事を支援して頂く。それにより本人を支えていることを双方で理解していく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも、誰でもGHに訪れることができるよう、面会時間は、面会される方が起床されている時間は、自由に面会・外出ができる事を入居時に説明し、家族や、近親者・知人との絆を継続できるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度の方は、孤立しがちであるので、職員ができるだけ寄り添いながら生活の継続を心掛け、交流の持てる方にはその関係を大切に見守るなど、夫々の形を大切にし支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を出したり、必要に応じて連絡を入れたり関係が継続するように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月に一度、入居者にテーマを決めて意見を聞いたり、日常的にも希望を聞くことを大切にしている。入居者の希望を100%に近づけて叶えて行くことを方針にしている。意思表示の困難な方に関しては、日ごろの行動から考えていく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面接において、家族・本人からの聞き取りにより、把握に努めている。叶えられる内容についてはできるだけ実行している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、観察し把握に努めている。交代勤務の為、情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議により、職員と状況の共有に努め、家族から見た入居者の状況も重視し、専門職からの意見も聞きながら意見を反映した介護計画の作成に心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	処遇日誌を見やすく書きやすく改正し、記録時間の省力化を図り、生活記録の記入をしっかりとできるように工夫した。それにより、介護計画にも反映しやすくなったと考える。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存概念に囚われず、希望を100%に近づけて叶えられるよう、日々の生活で工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への外出は、花々や動物に出会い、県立の花菜ガーデンや、農協のあさつゆ広場、養護学校、幼稚園が入居者を楽しませてくれる。田んぼや畑には季節の物がなり、職員に名前を教えてくれるなど様々な資源との出会いが楽しめる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科一般については、在宅時の意思が往診され、本人たちが希望すればそのまま継続している。協力医を希望される方は、協力医の往診が受けられる。また、皮膚科、精神科、歯科も希望により往診してくれる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが、看護師を雇用し、往診時や医師の不在時に、医療面での報告や相談ができる。出勤時には、積極的に入居者の状態把握と適切なアドバイスをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最近の医療関係者は、施設ではなく家族のみしか対応してくれないことが増加しているが、MSWや家族をとおして情報を得て、早期退院や状態を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者と話をすることは困難であるが、家族との話で、希望を聞いておく。将来、そのような状態が起きた時、さらに詳しく施設での対応や、家族の役割医療関係者の役割その他、マニュアルに添って再度家族との話し合いを行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で、緊急時に対応する講習もあるが、全ての職員が実践力を身に付けてはいない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回に防災訓練により実践力の習得を繰り返している。別に緊急通報訓練を実施。地域との協力体制については、確実な形はない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードの研修に2名参加させ、職員会議で説明を繰り返し、人格の尊重・プライバシーの保護により、信頼関係が気づきより良い対応ができる事を体得させている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月1回の利用者アンケートの日にはテーマを決めて入居者の希望を聞いている。その他、レクリエーションの時間等にも思いを話してもらったり、したいことを決めてもらうなど希望を言えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の特徴でもあるが、職員の思う通りには行かない方が多い。自由に過ごして頂き、外出等（散歩）希望があればその時に行うようにしている。職員サイドの日程には参加を促すことはメリハリある生活の継続の為、実施しているが強制はない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所に櫛を置く、希望者には化粧品を購入できるようにする、カットやパーマを希望されればご家族の協力のもと実施。施設にも、化粧品が用意してある。（香水含む）		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日、行事等含め食べたいものを聞きながら献立作りやおやつとして提供している。買い物にも同行してもらう。食材切り、盛り付け、配膳、片付け、お茶入れ、食器拭きなどにも参加してもらう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供量は必要所要量の為、嚥下力、噛む力、好み等にも応じた提供方法を検討している。水分量は必要に応じ、記録をとっている。食べる姿勢や環境も影響するため、配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促している。夜間は義歯洗浄剤にて洗浄している。歯科の往診がある為、定期的に口腔検診も家族の希望があれば実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄習慣を把握し、時間でトイレ誘導を実施。できるだけトイレで排泄ができるよう促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤等に頼らないよう、程度な水分補給、寒天ゼリーの提供、オリゴ等の提供、毎日の散歩など工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には1日置きに入浴できるようにしているが、毎日希望される方は入浴ができるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢、疲労感の強い方などここに合わせて日中の休憩を促している。夜間は、消灯時間は決めていないため、希望により就寝介助をしている。気持ち良い睡眠の確保の為、温度、照明等の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員ではないが、目的や副作用、用量等理解できている。誤薬のないよう飲み方の工夫をしている。新規の薬の場合は、飲んでからの症状にも留意している。最近、ジェネリックがあり、良い反面薬の名称が変わり覚えにくい欠点がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力や経験、生活歴など考慮し、役割を行ってもらったり張り合いや生きがいを感じてもらおうようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望すれば一緒に出掛けたり、時には家族の協力をお願いしできるだけ希望に沿っている。ほぼ毎月、季節の行事を取り入れ、気分転換や楽しみにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理をしている入居者が数名いるが、自ら使用したいとの希望はほとんどない状態である。以前のように、様々な事が自然にできる事の意味は、職員全員理解している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話、手紙等は自由にしている。そのための支援は、その人に合った方法で実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって居心地良い空間は見慣れた場所、見慣れたものがある場所ではないかと思うが、建物全体を家庭に近づけ、落ち着いた色彩を用い、見慣れた環境を醸し出せるようにした。空気清浄器、加湿器、扇風機等々使用し環境を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの方がリビング、自室で過ごすことが多いが、E L V前の小ホール、玄関前の椅子、1階から2階へ、2階から1階へと自由に行き来ができ、思い思いの場所で生活している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで家庭で使用していた物の持参をお願いし、配置もできるだけ従来の部屋に近い状態をお願いしている。設置も、本人に確認しながら置けるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、できるだけシンプルなつくりを心掛け、現存能力ができるだけ自由に活用できるよう促しながら、自立して生活の継続を心掛けている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム湘南安居花樹庵

作成日 平成29年4月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	雨天以外の、毎日の散歩はほぼ実行されて居るが、たまに拒否や、行かれない状態が発生してしまう。	全ての入居者が、気持ち良く気分転換ができるよう、また健康維持のために外気に触れるよう支援に心がける。	拒否する方への対応の検討。雨天時、階段昇降を実施しているが、楽しく歩行できるような工夫をしていく。	2か月
2	35	災害や緊急時の協力体制の強化。避難場所への通路の確認等。	地域住民や避難先との協力体制が取れる。備蓄品のリストを作り直す。	運営推進会議時での話し合い。避難先である金田小学校との話し合いをより具体的にしていく。備品リストの整備。	3か月～6か月
5					